

研究所主催のセミナー・シンポジウム

第5回 和漢薬研究所夏期セミナー (24~26. Aug. 2000)

漢方診断学部門 伊藤 隆
(第5回担当実行委員長)

和漢薬研究所夏期セミナーは、全国の薬学生、医学生に和漢薬への理解を深めてもらうために企画実施されてきた。講義、体験実習、和漢薬談義、交流懇親会を和漢薬研究所の教職員、留学生、大学院生、大学生が文字通り手作りで運営している。

今回は5回目で、上新川郡大山町の大山研修センターにて、8月24日から26日に開催された。参加者は51名(学生34名、一般17名)、全国各地から和漢薬に興味ある若者たちが集った。なお学生の内訳を示すと、薬学部学生13名、薬学部院生8名、医学部学生12名、歯学部学生1名と、医学部学生が例年になく多いのが今回の特徴と思われる。

臨床系が幹事を担当するので、テーマには何か臨床らしいことをということで、実行委員会では何度もご討議いただいた。その結果「和漢薬 基礎と臨床の接点」をテーマとすることに決定した。このテーマにそって、「漢方概論」、「アレルギーと漢方薬」、「ストレス」、「八味地黄丸」の4つの小テーマをたて、それぞれについて基礎および臨床から講義するセッション形式の企画をたてた。初めての試みであったが、時間配分、内容ともに満足できるものとなった。例年好評の体験実習は、関係者のご苦勞により、今回も生薬鑑定と桂枝茯苓丸作りを行うことができた。今回は新たに、気血水診断実演を加え、物珍しさもあってか、大好評であった。名物となった和漢薬談義では、初日は寺澤捷年教授(医学部長)が印象的な症例のお話で参加者のやる気を鼓舞され、本セミナーも大いに盛り上がった。2日目の夜は研究所部門紹介と質疑応答を行った。企画側としてはやや短い時間に多くのことを盛り込みすぎた反省もあるが、参加者の熱気はそれを充分補ってくれたと思われる。参加者達の討論は、初日も2日目の夜遅くまで(一部は夜を徹して)続いた。終了時のアンケートでは、いずれの企画も好評であったことは幹事冥利に尽きる何よりの喜びであった。アンケートで興味深いことは、薬学部の学生も臨床的な話や実習に興味を持っていたことである。講義の形式や内容については、参加者の要望などを参考にして、これからも新しいアイデアで企画していくことが必要と思われる。

本セミナー開催にあたっては多くの方々のご協力を頂いた。

富山県薬用植物指導センター(薬用植物の展示)、立仁会および企業(協賛金)、本学の庶務課(送迎バス)、研究協力課(ポスターの郵送)、楮鞭会(実習の支援)の方々には厚く御礼申し上げます。

以上



第5回 和漢薬研究所夏期セミナー プログラム

第1日 (8月24日)

- 13:00 受付
- 13:45 開会挨拶 服部征雄教授 (薬物代謝工学)
- 14:00 講義 1-A 漢方概論・薬学編 谿 忠人教授 (資源開発)
 -B 漢方概論・医学編 伊藤 隆教授 (漢方診断学)
- 15:45 講義 2-A アレルギーと漢方薬・基礎編 濟木育夫教授 (病態生化学)
 -B アレルギーと漢方薬・臨床編 柴原直利助教授 (漢方診断学)
- 20:00 和漢薬談義 Welcome to my Kampo World 寺澤捷年教授 (医学部和漢診療学)
- 22:00～深夜 自由討論・懇親会

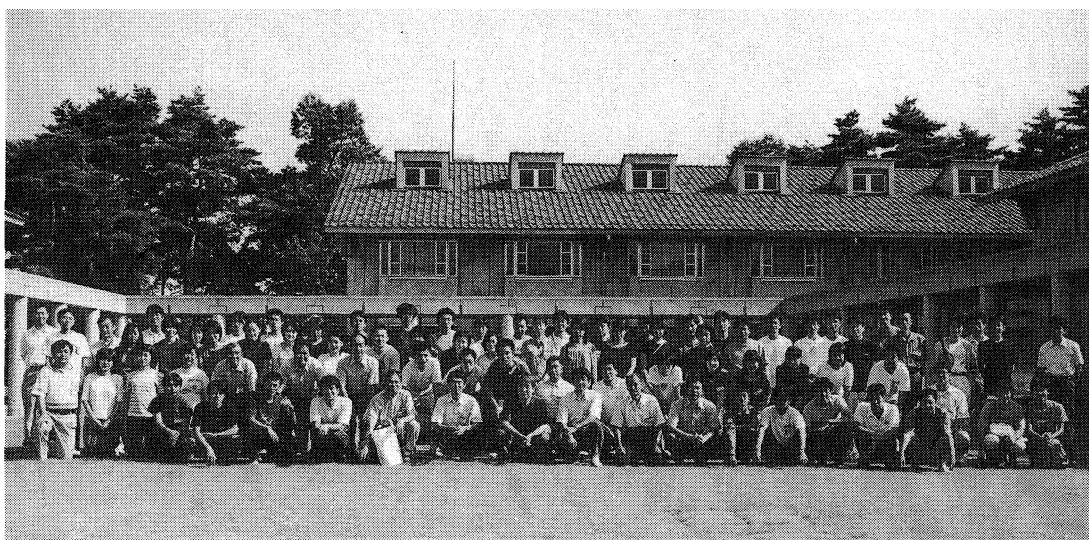
第2日 (8月25日)

- 9:00 講義 3-A ストレス病態動物と薬物作用 東田道久助手 (生物試験)
 -B 魚嫌いは自殺する 浜崎智仁教授 (臨床利用)
- 10:40 講義 4-A 神経細胞に対する地黄の作用 東田千尋助手 (薬効解析)
 -B 八味地黄丸と糖尿病 Basnet Purusotam 助教授 (薬効解析)
 -C 八味地黄丸はどこに効くのか 喜多敏明助教授 (漢方診断学)
- 13:30 体験実習 (三班に分れる)
 生薬方剤鑑定; 丸薬 (桂枝茯苓丸) 調製; 気血水診断実演
- 20:00 和漢薬談義 研究所部門紹介・和漢薬なんでもQ
- 22:00～深夜 自由討論・懇親会

第3日 (8月26日)

- 9:30 解散 (希望者は和漢薬研究所, 民族薬物資料館を見学)

以上



第5回 和漢薬研究所夏期セミナー 平成12年8月24日～26日